

発行にあたって

中央大学の創立者の一人である菊池武夫（1854－1912）は、1875年に文部省第1回官選貸費留学生としてボストン大学法学校に留学しました。本資料集は、留学時、菊池が同校で教えを受けたニコラス・セント・ジョン・グリーン（Nicholas St. John Green）の3つの講義内容（Torts、Criminal Law、Kent's Commentaries）を筆記した英文ノートを翻刻・収録しています。

菊池の手になる上記の英文ノートは2冊で、TortsとCriminal Lawが1冊に、またKent's Commentariesはメルヴィル・マディソン・ビゲロー（Melville Madison Bigelow）のBills & Notesと1冊に、それぞれ収録されています。いずれも市販のノートに黒インクを用いたペン書きです。ノートの大きさは前者が縦202mm×横165mm、後者は縦205mm×横170mm、表紙にはマーブル模様がほどこされています。

これらのノートは、今から35年前、創立100周年記念事業の一環としてはじまった100年史編纂事業に関わる資料調査の過程で、菊池武夫のご子孫の一人である友田靖子氏からご寄贈いただきました。

菊池のペン書きによる英文ノートについて付言すれば、上記2冊のほかエドワード・H・ベネット（Edward H. Bennett）のContracts、同じくベネットのAgency、ヘンリー・N・ペイン（Henry N. Paine）のReal Propertyがそれぞれ1冊、そのほか日記帳として再利用された冊子に残るベネットのLaw of Contractsがあります。

また、ペン書きの6冊とは別に鉛筆書きによるグリーン（Green）のTortsとCriminal Law、ベネット（Bennett）のContractsが記載され、当時の英字新聞Boston Evening Transcriptの切り抜きが大小多数貼り付けられていたノートが1冊現存します。

これら7冊のノートは、適宜修復などをほどこし、他の菊池武夫関係資料とともに中央大学に関わる貴重な歴史資料として温湿度を管理した収蔵庫において保管しています。

大学史資料課では現在貴重資料のデジタル化を進めておりますが、その中に菊池の英文ノートも加えることにより調査研究環境の一層の整備に努め、このたび資料集第28集発行の運びとなりました。

本集は、中央大学の創立者に関わるものでありますが、菊池が学んだ当該期のアメリカにおける英米法の実態を知る資料として国内はもとより世界の英米法研究に資することを願っております。

なお、原資料の記述に即して英文ノートの根気のいる翻刻作業に従事し、グリーン（Green）の略伝をおまとめくださったボストン大学ロースクールのデイヴィッド・サイプ教授、またサイプ先生との英文原稿のやり取りなど仲介の労をお取りくださり、序文並びにグリーン（Green）略伝の翻訳をお引き受けくださった北井辰弥（Shinji Kitai）本学法学部教授に心から深謝申し上げます。

菊池武夫関係資料については、これまで中央大学100年史編纂の基礎資料とすべく菊池が発信・受信した書簡231通を、まず資料集第4集として1989年に発行し、その後、菊池の日記と金銭出納記録11冊を日記編として第6集、第9集、第11集の3分冊で1990年から1992年にかけて

て発行して参りました。本資料集は、それに続く成果であります。

これら菊池諸資料の調査収集並びに資料集化は、菊池武夫ご親族のみなさまのご理解とご協力の賜物であります。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

2017年3月

中央大学史料委員会専門委員会主査

小口好昭